

木材需給動向について (九州地区)

2022年1月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html)
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html)



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（九州地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・九州地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

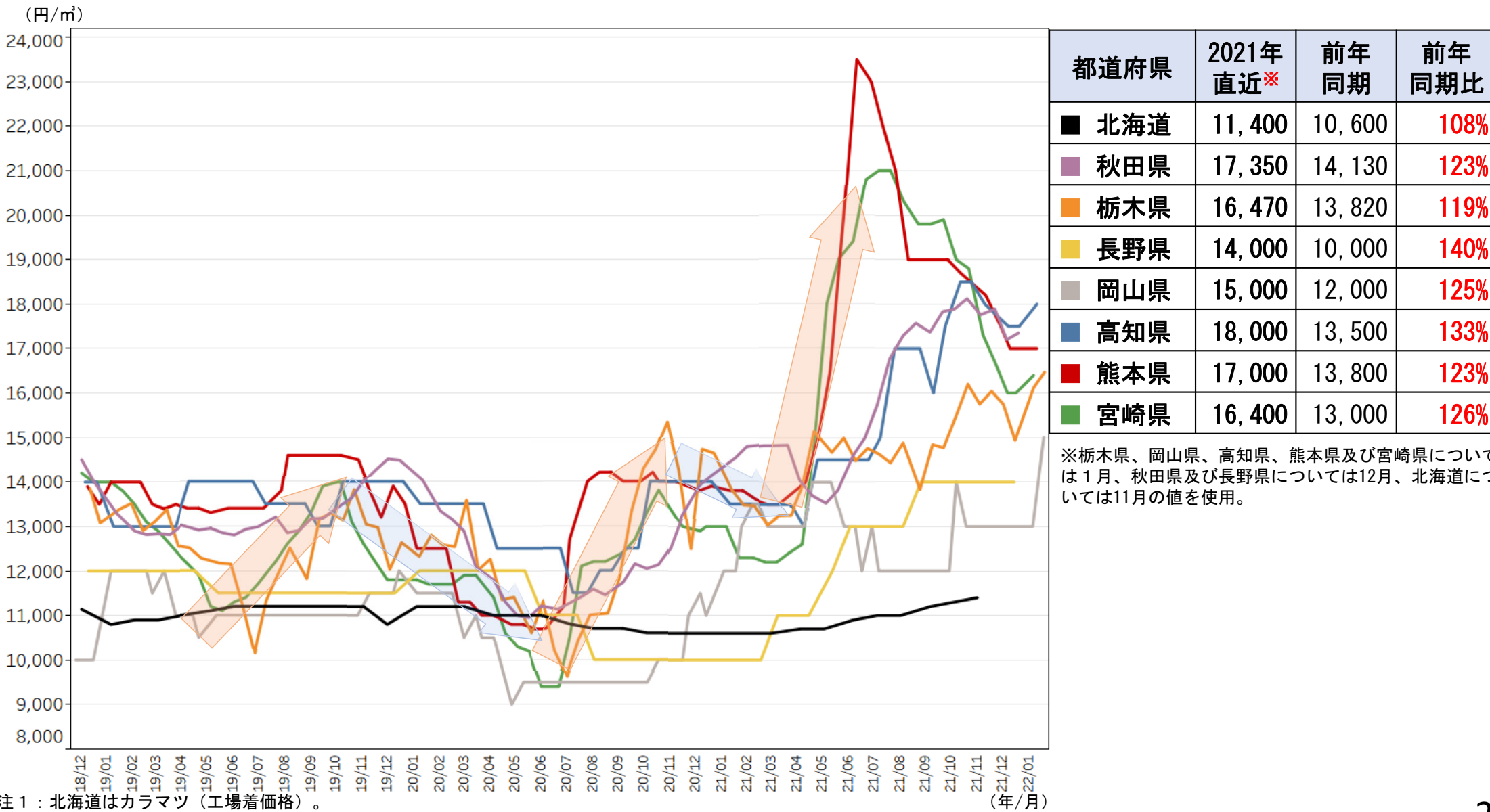
(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 九州地区の住宅着工戸数

4 木材輸出量

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)
ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

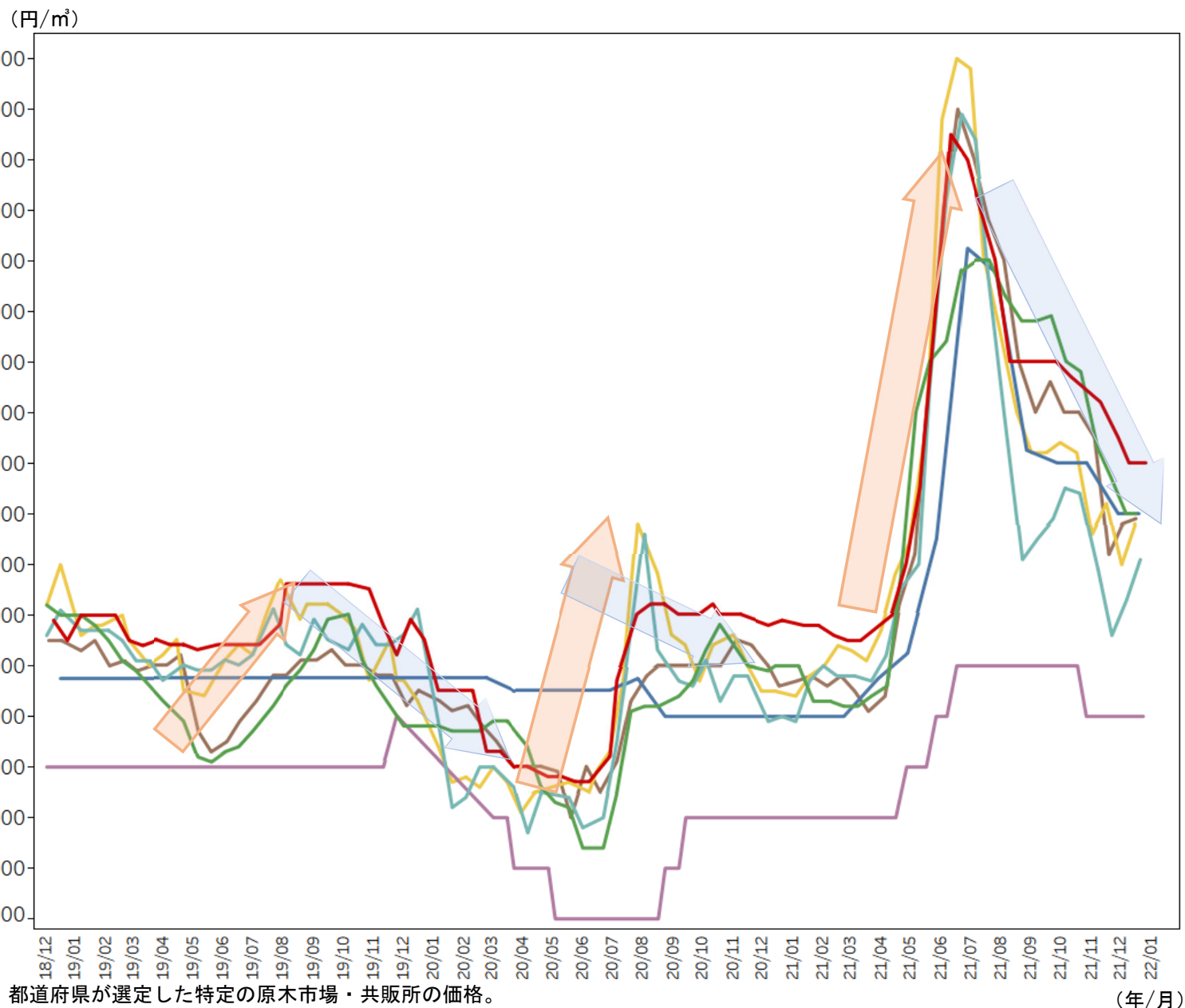
- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇する地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では全国的に高止まり傾向。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比119%から140%となっている。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（九州地区） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ 例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。九州のほぼ全域で価格が高騰したが、直近では下落傾向も見られる。
- ・ 直近のスギ原木価格は、前年同期比117%から126%増となっている。



都道府県	2021年 直近※	前年 同期	前年 同期比
福岡県	13,900	11,900	117%
佐賀県	16,000	12,750	126%
長崎県	12,000	10,000	120%
熊本県	17,000	13,800	123%
大分県	15,400	12,400	124%
宮崎県	16,400	13,000	126%
鹿児島県	16,000	12,700	126%

※福岡県、熊本県、大分県、宮崎県及び鹿児島県については1月、佐賀県及び長崎県については12月の値を使用。

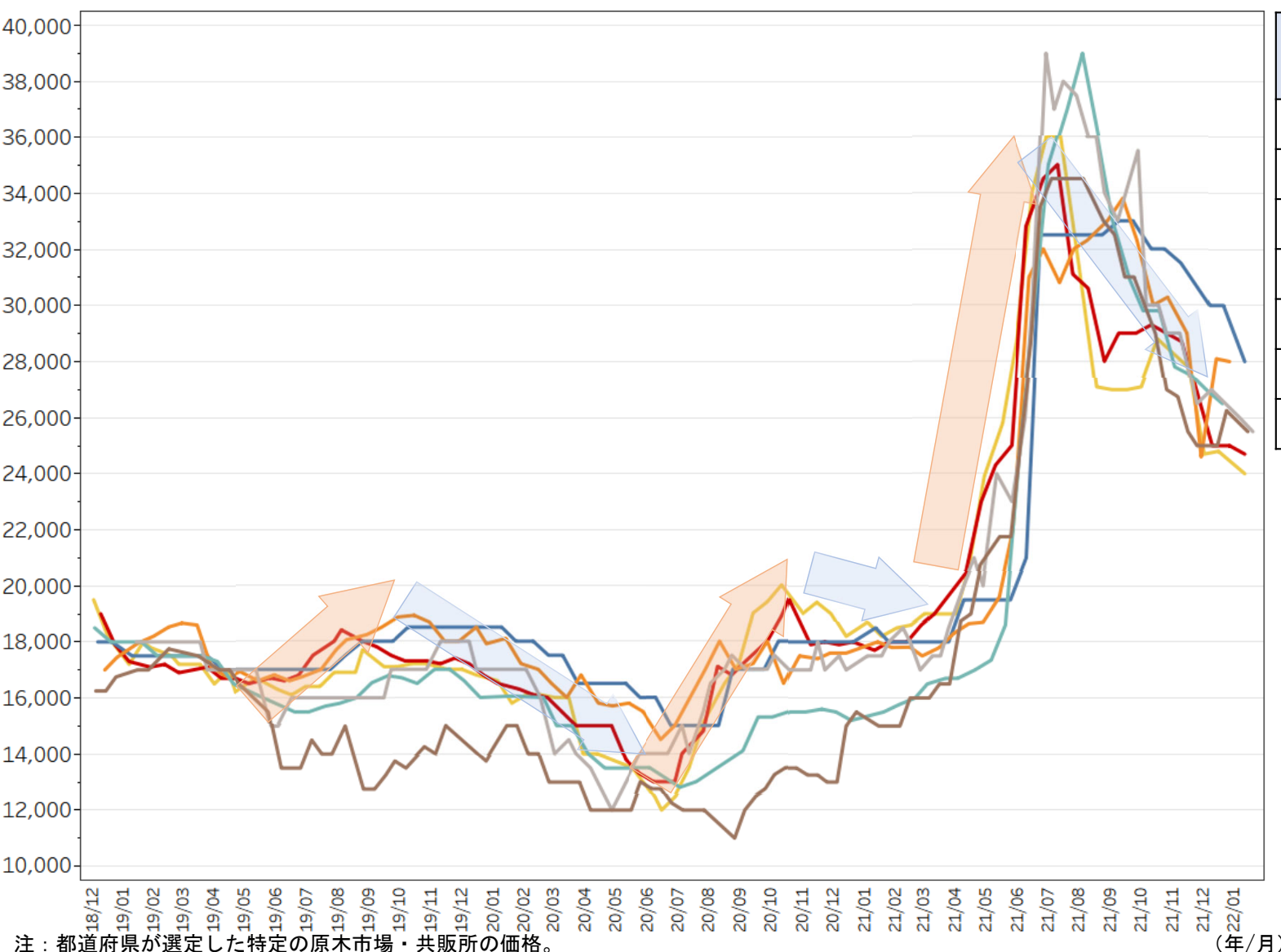
注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、全ての地域で価格が大きく上昇し、直近では例年程度まで戻らないものの下落傾向。
- 直近のヒノキ原木価格は、前年同期比128%から174%となっている。

（円/㎡）

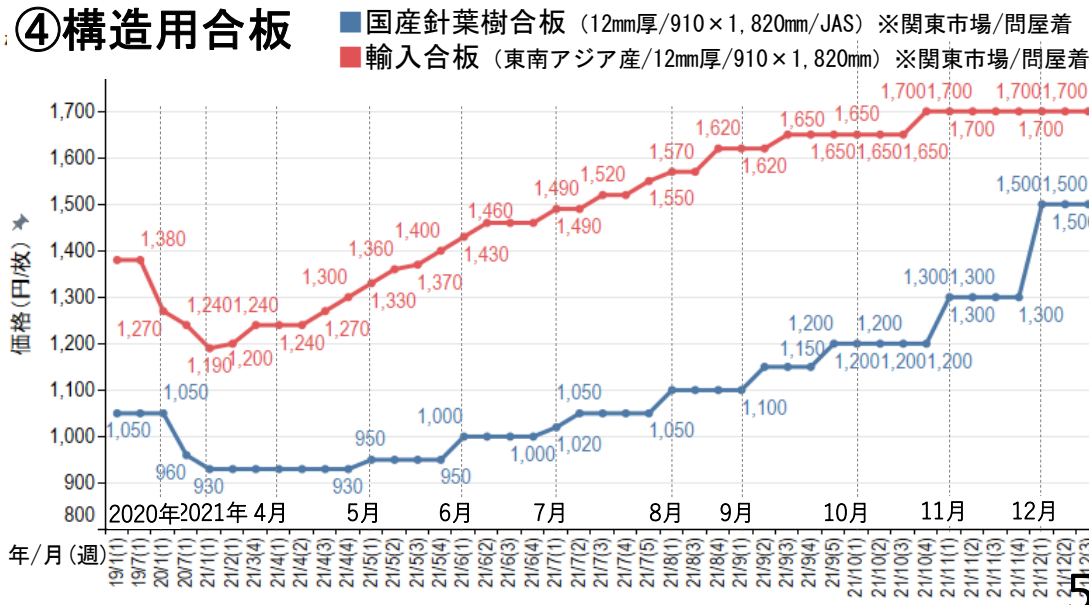
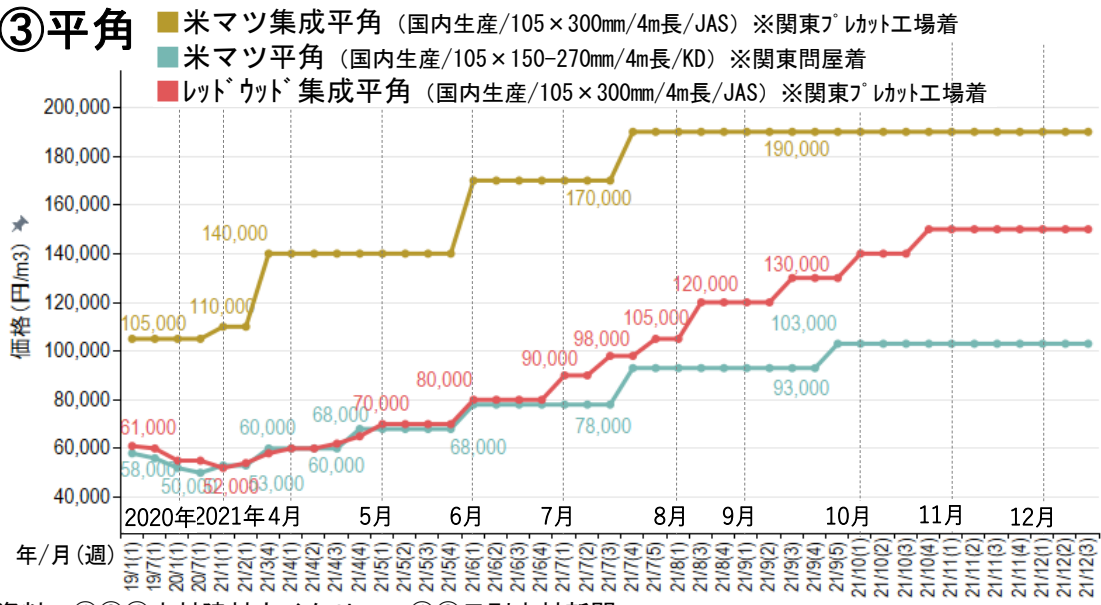
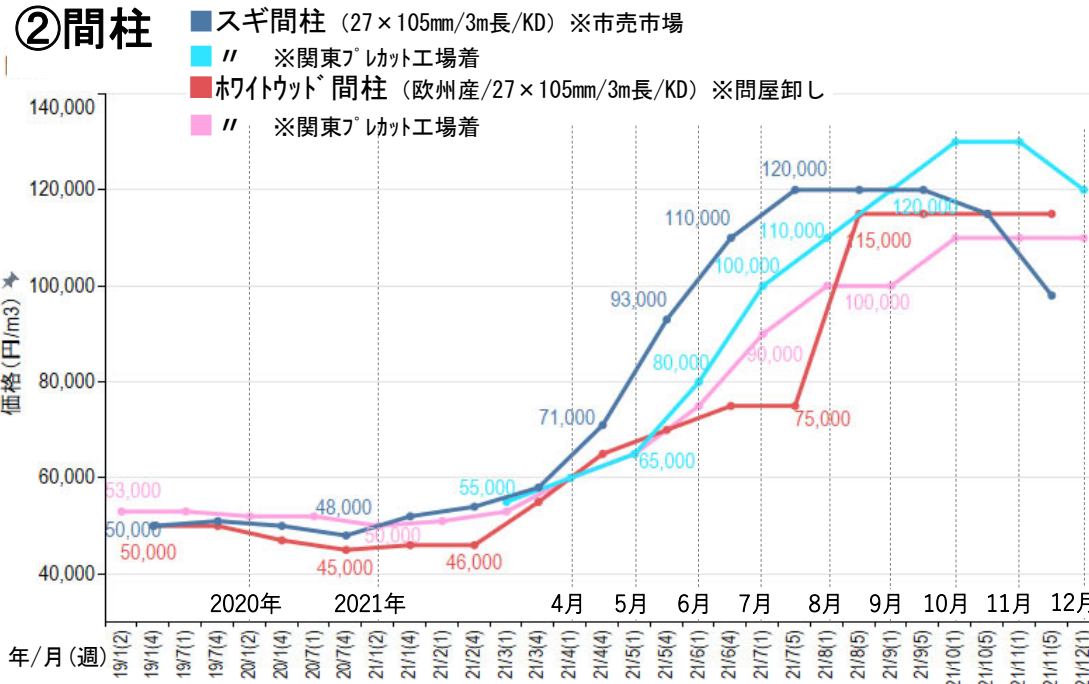
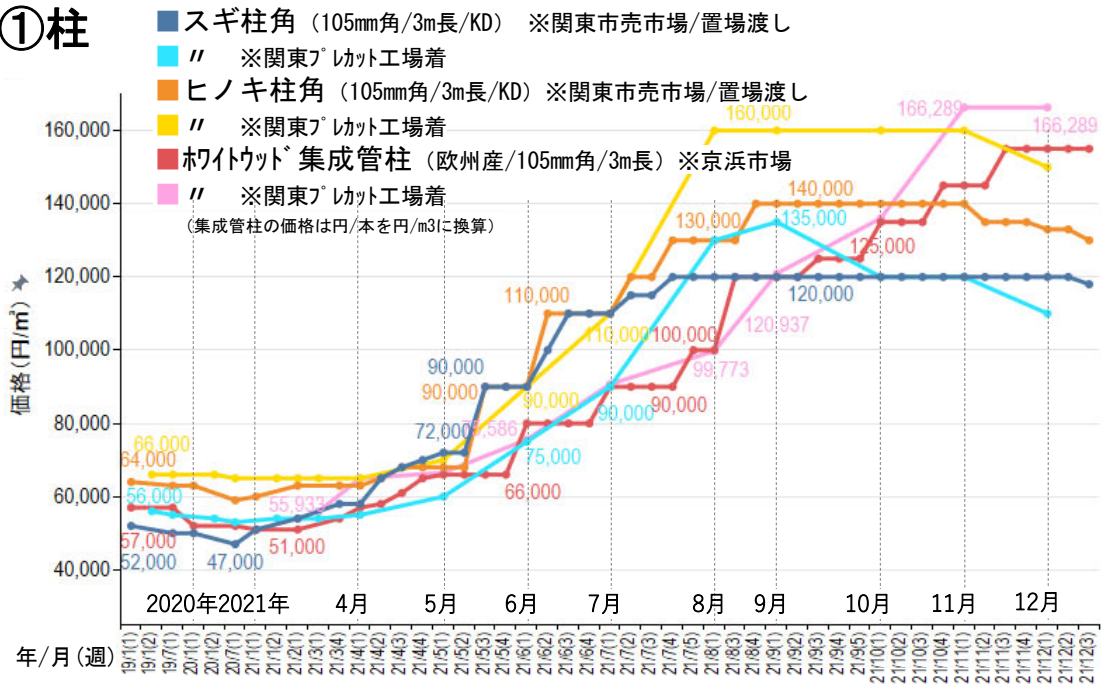


都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
兵庫県	25,500	15,000	170%
岡山県	25,500	17,500	146%
広島県	26,500	15,200	174%
愛媛県	28,000	17,600	159%
高知県	28,000	18,500	151%
熊本県	24,700	17,700	140%
大分県	24,800	18,700	128%

※兵庫県、岡山県、広島県、高知県及び熊本県については1月、広島県及び愛媛県については12月の値を使用。

(2) 製品価格

- ・ 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- ・ 国産材の代替需要により国産材製品価格も上昇し、直近では合板は上昇傾向、製材は高止まりか下落傾向となっている。

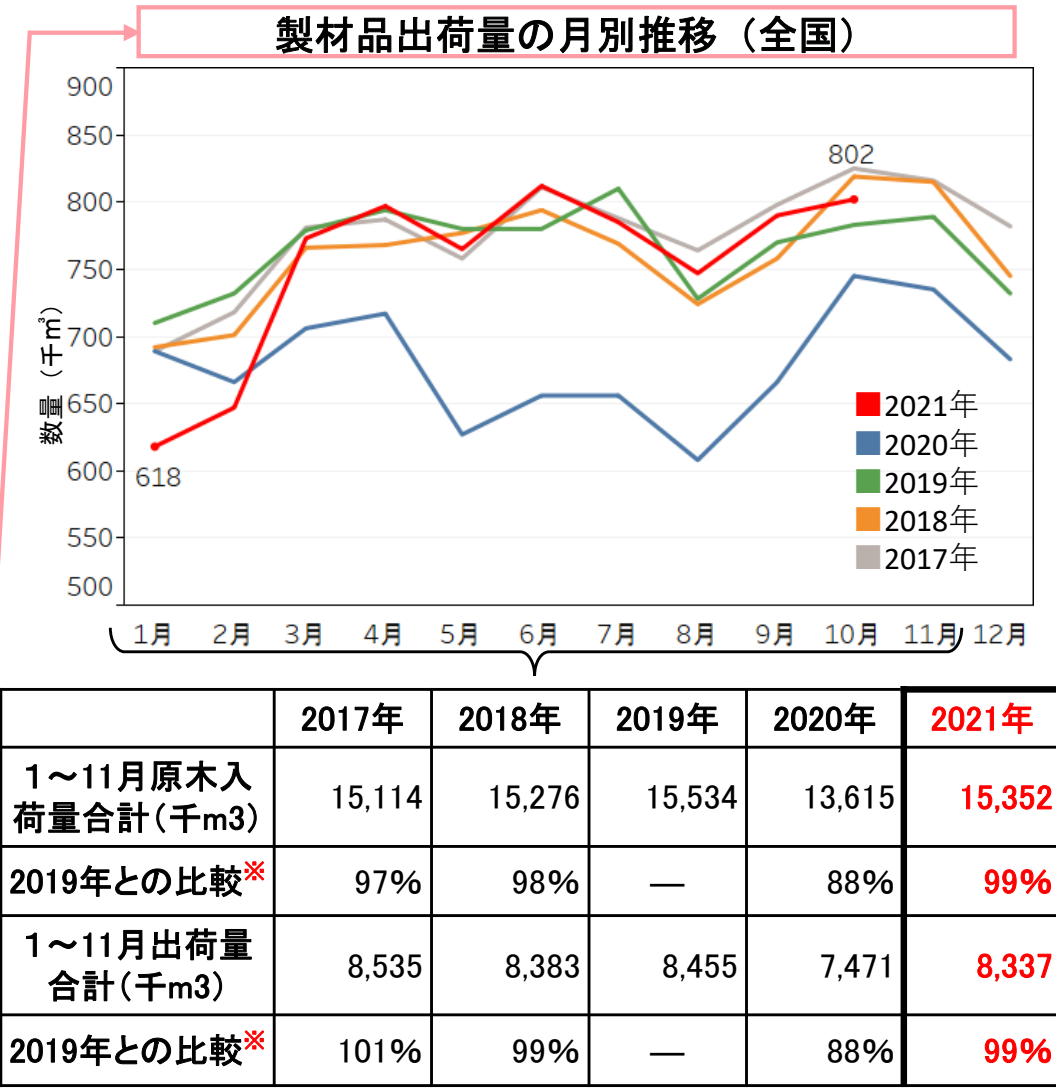
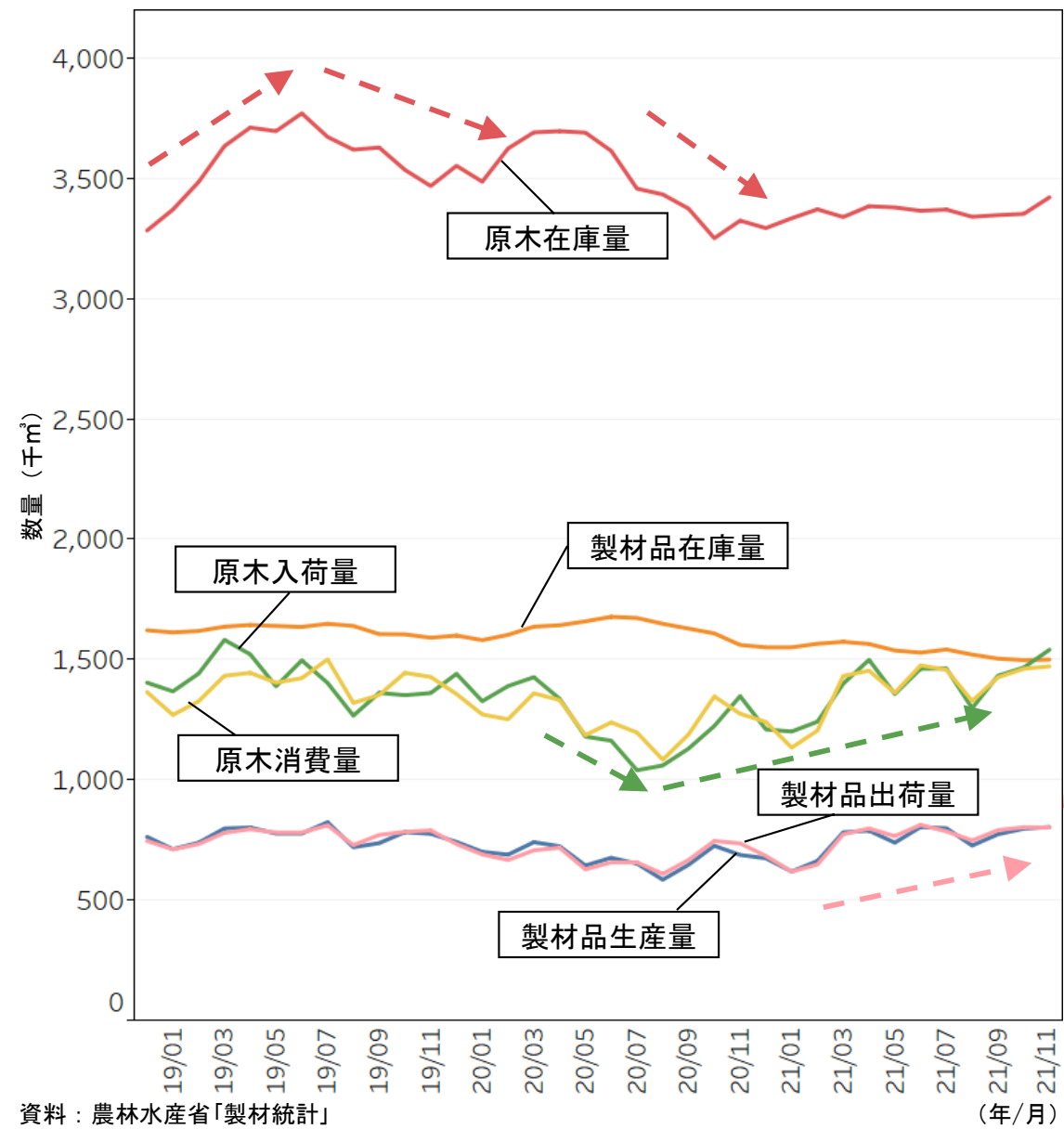


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

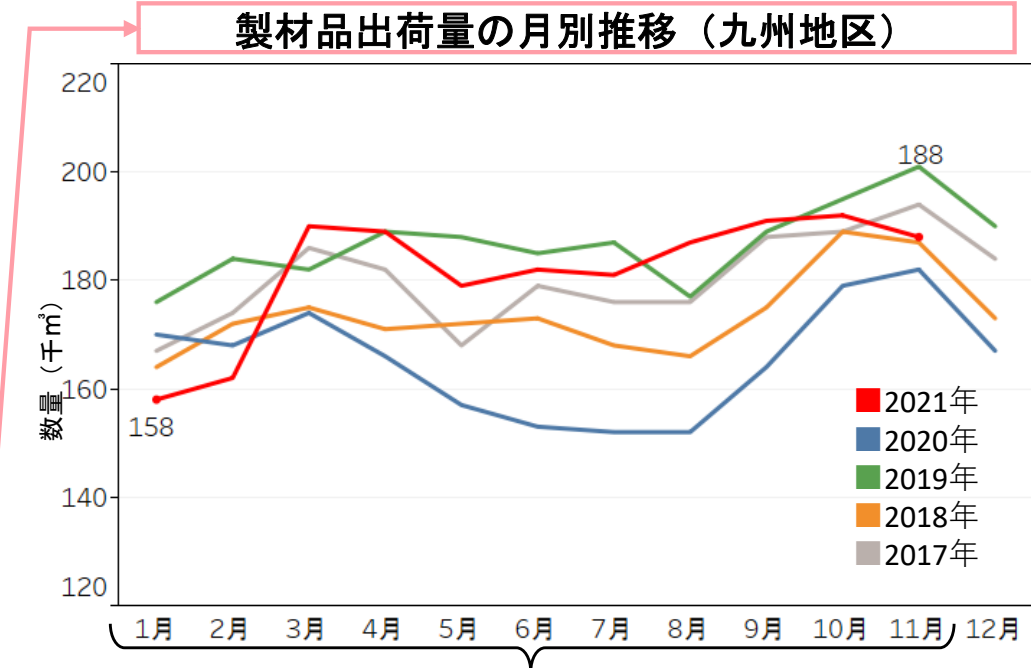
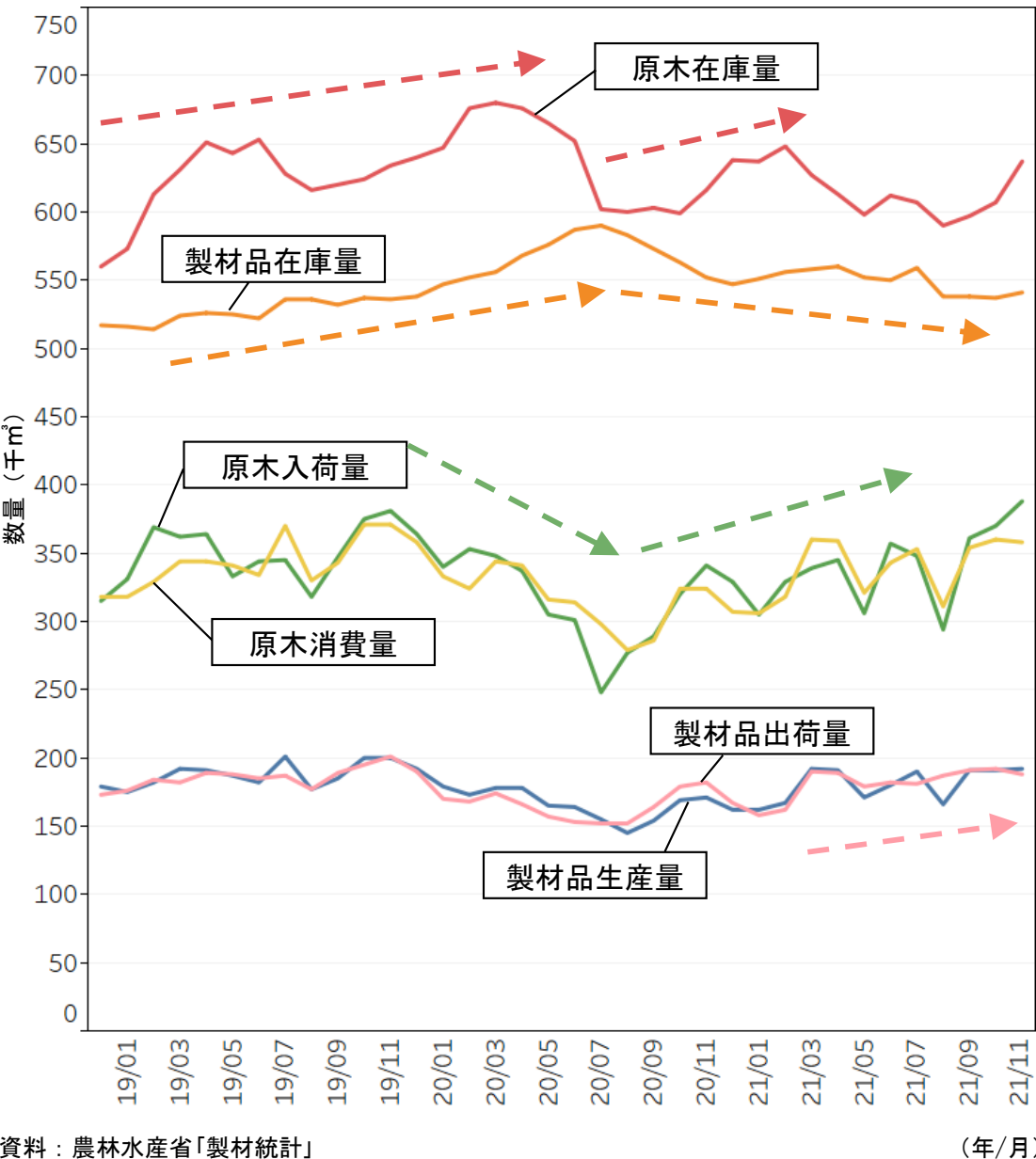
- 2021年1～11月の原木の入荷量は15,352千 m^3 (2019年比99%)。
- 同様に製材品の出荷量は8,337千 m^3 (2019年比99%)、コロナ禍前の水準となっている。



※2019年の数値を100%とした比較

(1) 製材（九州地区）

- 2021年1～11月の原木の入荷量は3,742千m³（2019年比97%）。
- 同様に製材品の出荷量は1,999千m³（2019年比97%）、コロナ禍前の水準となっている。

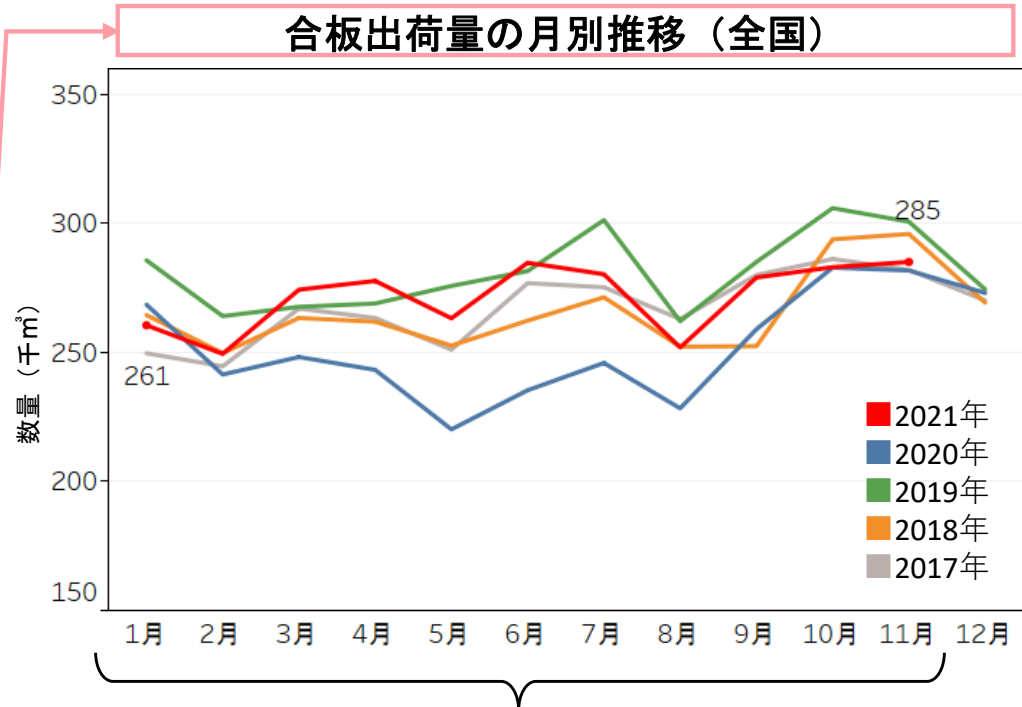
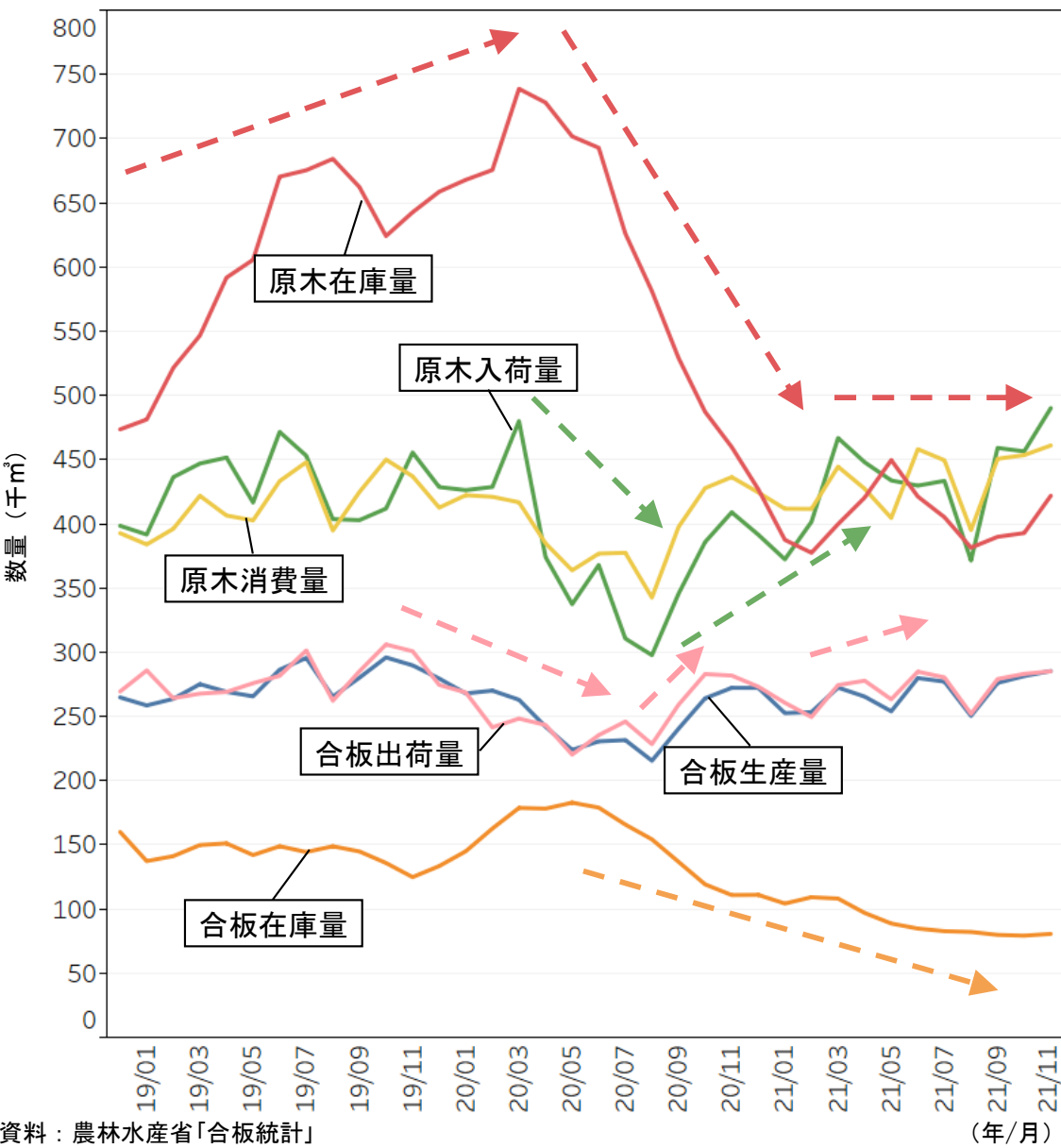


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～11月原木入 荷量合計(千m3)	3,513	3,553	3,869	3,459	3,742
2019年との比較※	91%	92%	—	89%	97%
1～11月出荷量 合計(千m3)	1,979	1,912	2,053	1,817	1,999
2019年との比較※	96%	93%	—	89%	97%

※2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板（全国）

- 2021年1～11月の原木の入荷量は4,762千m³（2019年比100%）。在庫量は低い水準となっている。
- 同様に合板の出荷量は2,990千m³（2019年比96%）、コロナ禍前の水準となっている。在庫量は2020年5月から減少傾向。

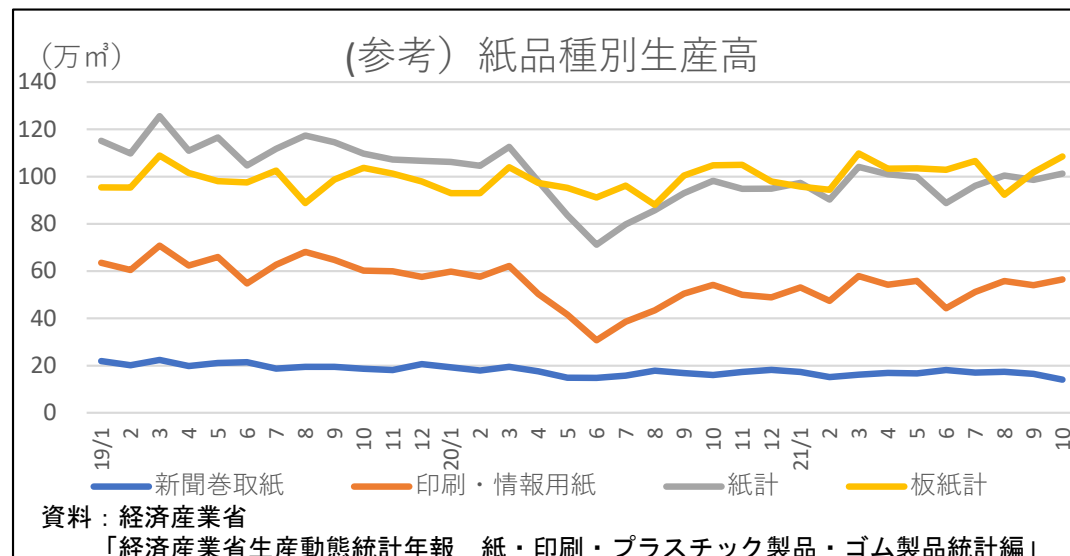
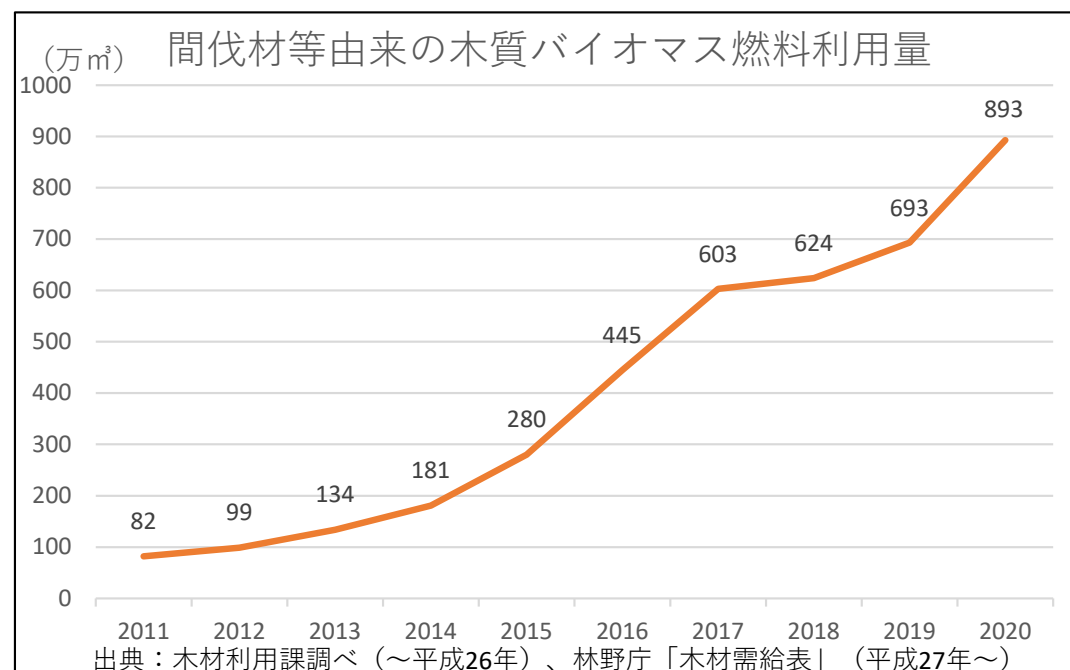
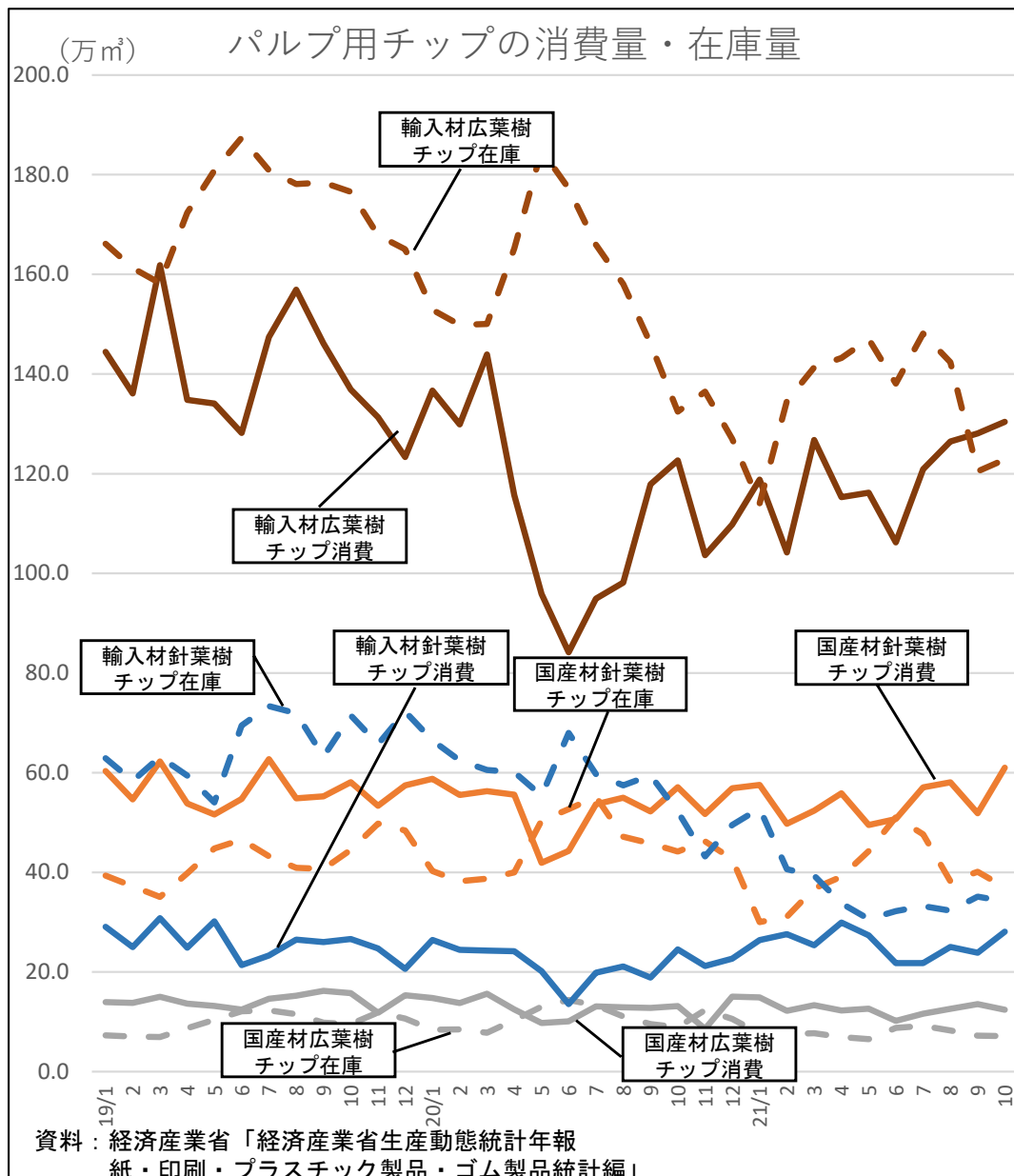


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～11月原木入 荷量合計(千m3)	4,220	4,532	4,741	4,162	4,762
2019年との比較※	89%	96%	—	88%	100%
1～11月出荷量 合計(千m3)	2,939	2,920	3,099	2,755	2,990
2019年との比較※	95%	94%	—	89%	96%

※2019年の数値を100%とした比較

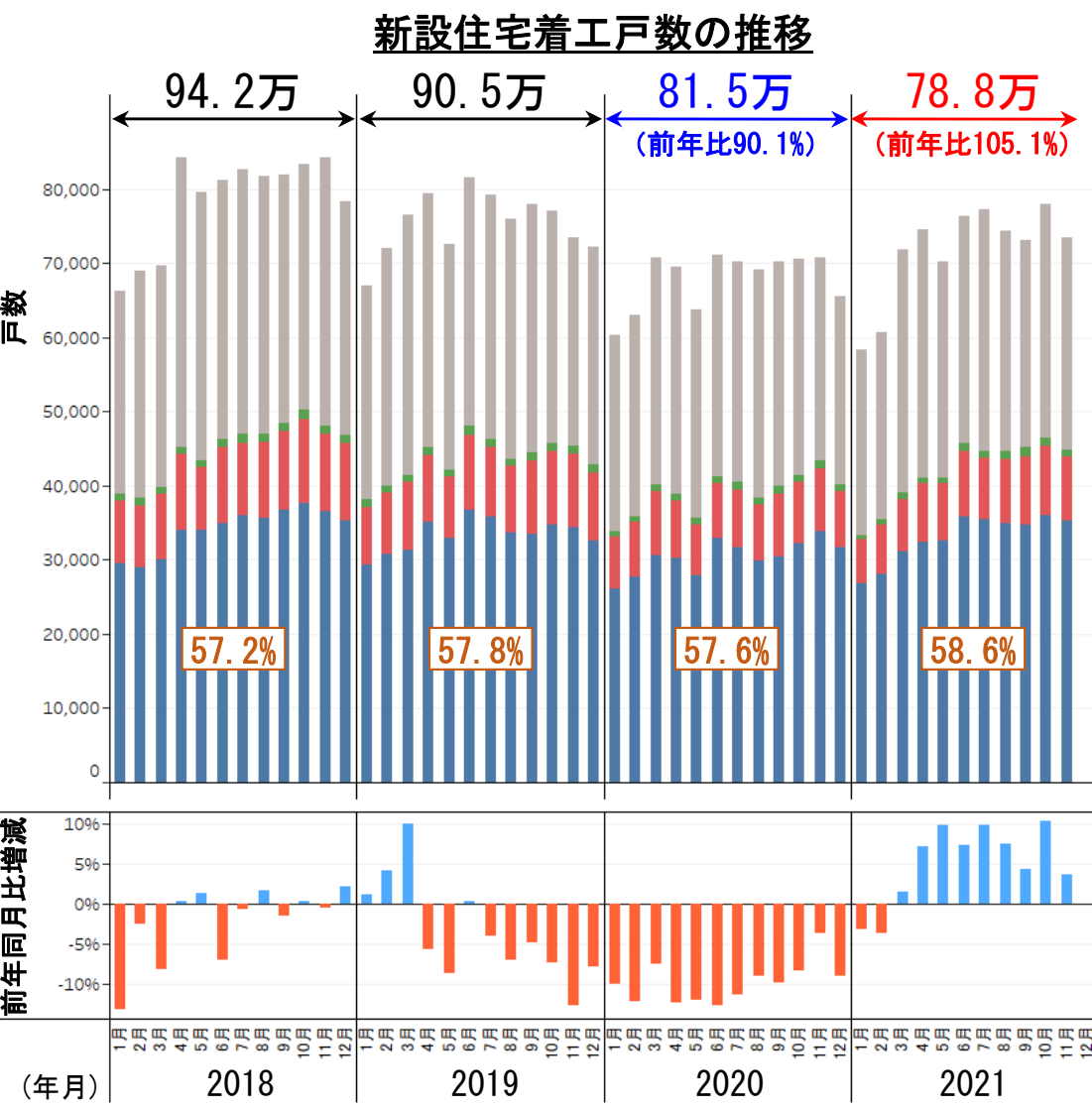
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、一貫して増加傾向が続いている。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。

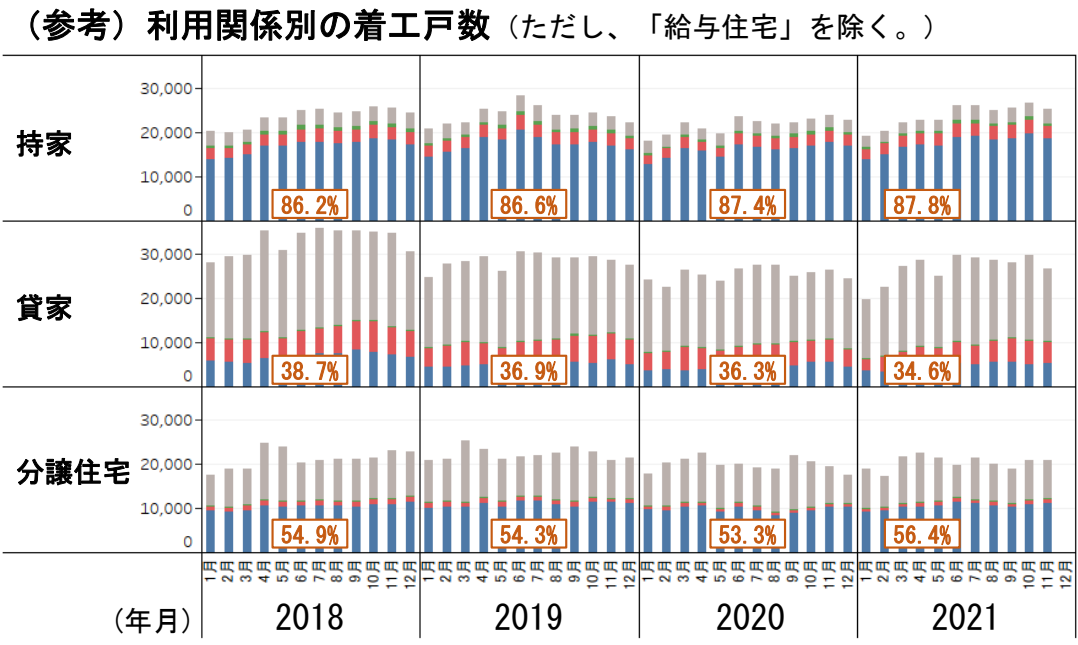


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2018年1月～2021年11月)

- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比90.1%）、このうち木造住宅は46.9万戸（同89.7%）。
- 2021年1～11月の新設住宅着工戸数は、78.8万戸（前年比105.1%）、このうち木造住宅は46.1万戸（同107.5%）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比72%となった。）



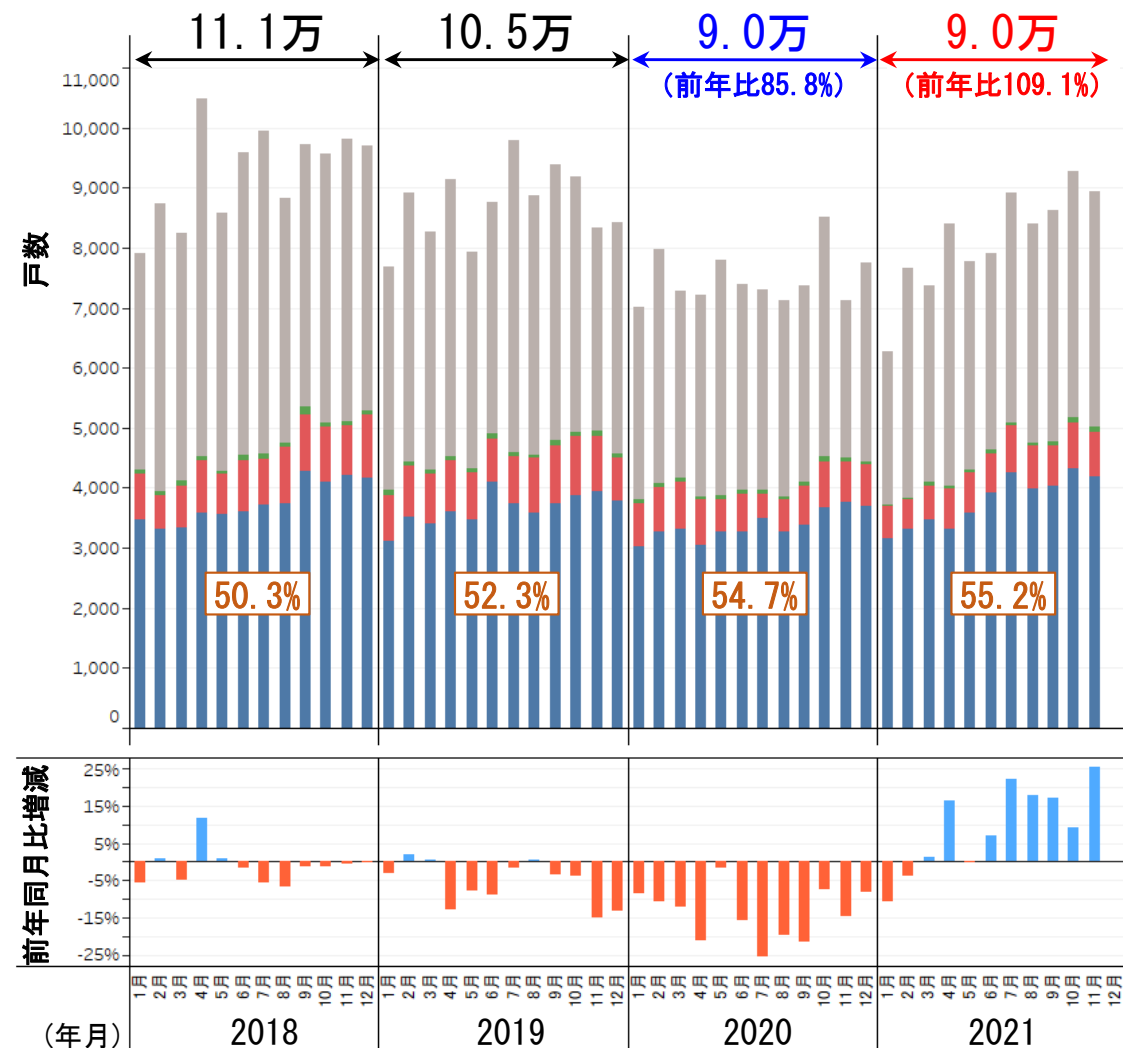
構造別の着工戸数	2021年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	788,091	749,697	105.1%	832,949	94.6%
■非木造	326,621	320,609	101.9%	352,452	92.7%
木造	461,470	429,088	107.5%	480,497	96.0%
■木造プレハブ	9,685	9,918	97.7%	11,129	87.0%
■2×4	88,202	85,441	103.2%	100,406	87.8%
■在来軸組	363,583	333,729	108.9%	368,962	98.5%
□木造率	58.6%	57.2%		57.7%	



(2) 九州地区の住宅着工戸数（2018年1月～2021年11月）

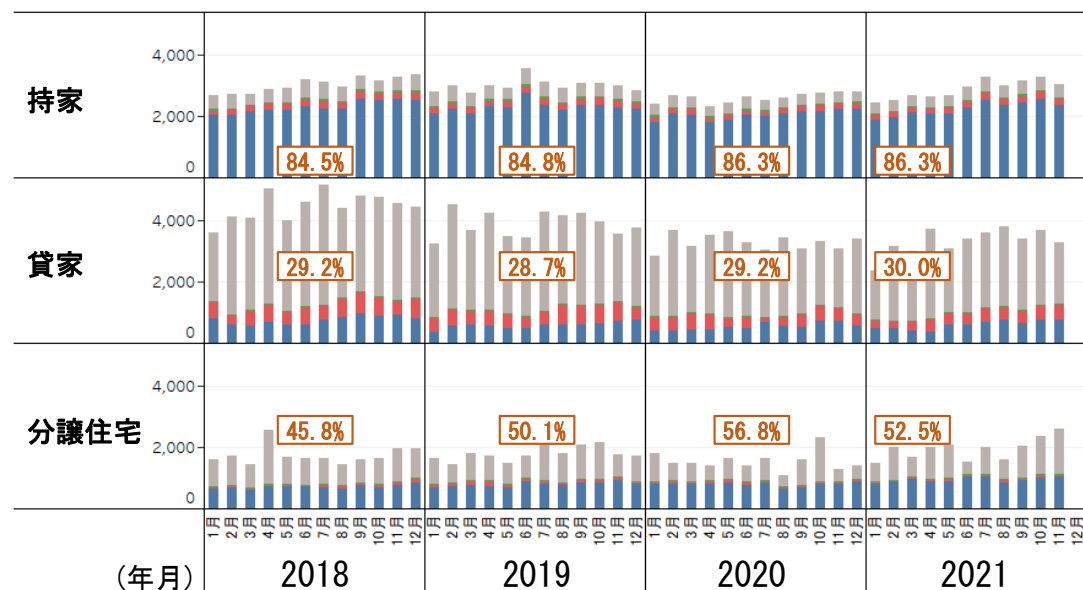
- 2020年の新設住宅着工戸数は、9.0万戸（前年比85.8%）、このうち木造住宅は4.9万戸（同89.6%）。
- 2021年1～11月の新設住宅着工戸数は、9.0万戸（前年比109.1%）、このうち木造住宅は4.9万戸（同110.6%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2021年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	89,548	82,110	109.1%	96,270	93.0%
■ 非木造	40,090	37,408	107.2%	45,986	87.2%
■ 木造	49,458	44,702	110.6%	50,284	98.4%
■ 木造プレハブ	676	754	89.7%	852	79.3%
■ 2×4	7,243	7,186	100.8%	9,323	77.7%
■ 在来軸組	41,539	36,762	113.0%	40,109	103.6%
□ 木造率	55.2%	54.4%		52.2%	

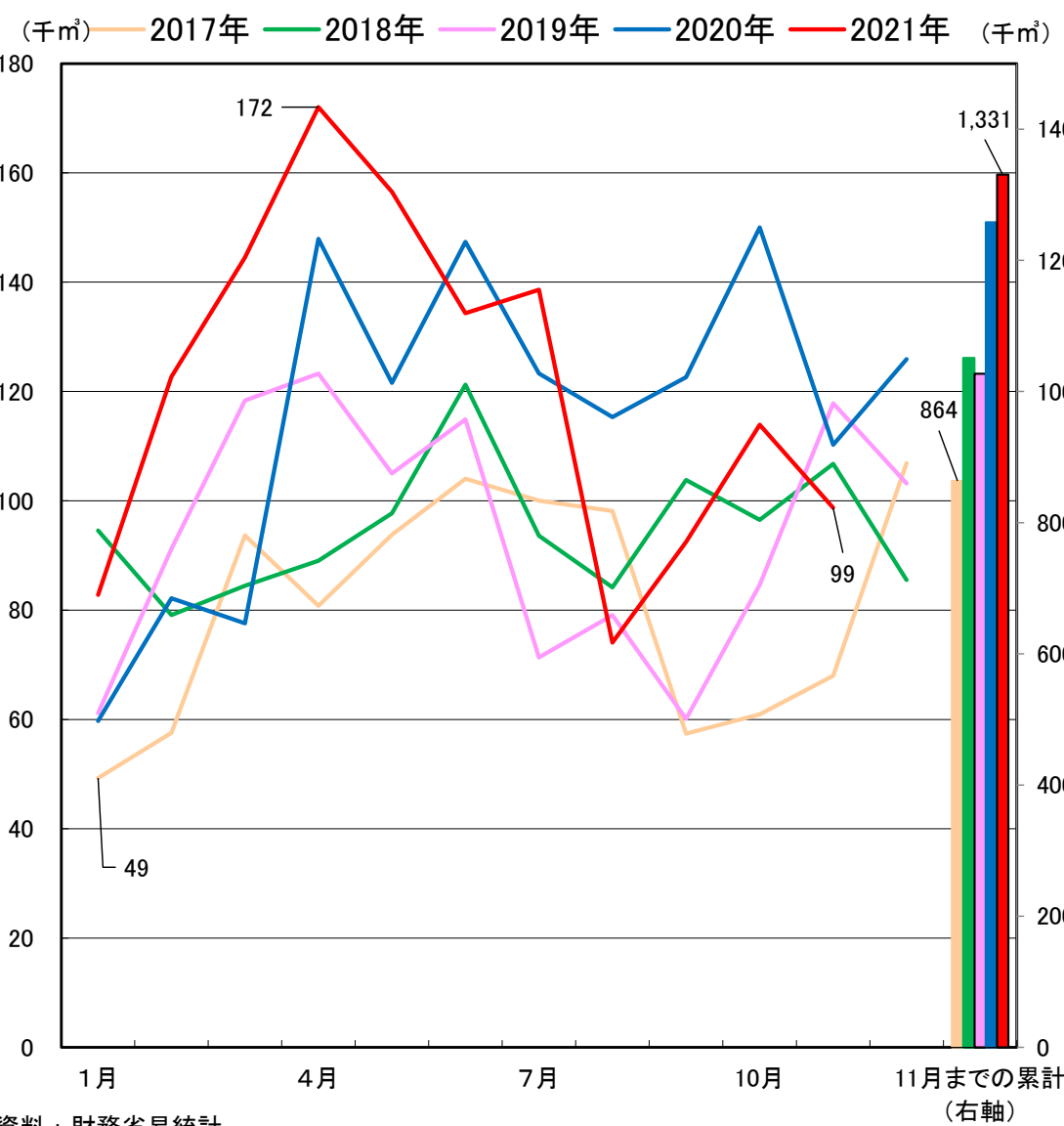
（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



4 木材輸出量

・ 令和3年11月の輸出量は丸太99千^m（前年同月比90%）、製材18千^m（前年同月比98%）、合板等12千^m（前年同月比111%）となった。1～11月までの累計は丸太1,331千^m（前年同月比106%）、製材188千^m（前年同月比122%）、合板等132千^m（前年同月比138%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



資料：財務省易統計
※貿易統計の第4403, 4407, 4412類を集計 ※四捨五入により、数値が合わないことがある

○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月(11月)			累計(1～11月)		
	主要品目内訳(千 ^m)			主要品目内訳(千 ^m)		
	前年比(%)			前年比(%)		
	丸太	製材	合板等	丸太	製材	合板等
中国	86 92%	6 98%	1 151%	1,111 106%	51 86%	11 157%
韓国	4 40%	1 86%	0 39%	114 103%	10 101%	1 159%
台湾	8 140%	1 152%	0 -	84 109%	13 129%	0 209%
米国	0 -	3 50%	0 -	0 -	55 121%	0 -
フィリピン	0 -	6 178%	10 108%	0 -	50 205%	119 138%
総計	99 90%	18 98%	12 111%	1,331 106%	188 122%	132 138%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 ^m) (1～11月)	比率 (1～11月)
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	182.2	13.7%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	5.7	0.4%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	13.8	1.0%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	23.9	1.8%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	27.9	2.1%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	36.8	2.8%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	407.4	30.6%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	633.1	47.6%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない